国際社会の歴史的転換が意味するもの

the state of the wholester we there a

中嶋嶺城

(東京外国語大学教授)

国際社会の変動

に脱社会主義化、脱共産化へと走っていったのでありませれの歴史の転機として、この時期を記録するのではないから起こった中国の民主化運動とその悲劇的な結末としての長記った中国の民主化運動とその悲劇的な結末としてのち起こった中国の民主化運動とその悲劇的な結末としてのち起こった中国の民主化運動とその悲劇的な結末としてのち起こった中国の民主化運動とその悲劇的な結末としてのち起こった中国の民主化運動とその悲劇的な結末としての表がしているともいえる東ヨーロッパの大変動、東欧諸国はまさ鎖反応ともいえる東ヨーロッパの大変動、東欧諸国はまさば、まさに歴史的なものだといわざるをえません。二十一は、まさに歴史的なものだといわざるをえません。二十一は、まさに歴史的なものでありません。

しております。 しておりまできたに大胆に推し進めるためのソ連におけかかかか。 というに大胆に推し進めるためのソ連におけかかかか。 というに大胆に推し進めるためのソ連における民族紛争のあいつぐ爆発にも しております。

九年から一九九〇年にかけての社会主義の歴史的な解体へのベルリンの壁が崩れたブランデンブルグ門まで、一九八のと私は見なしております。いってみれば、天安門からあいよいよ脱共産化、脱社会主義化への道を歩みはじめたもソ連の動きはいわばロシア革命七十余年にして、ソ連も

ちにくわしく述べてみたいと思います。ちにくわしく述べてみたいと思います。こうした社会主義がこのように内部かかってゆくのか、そしてなぜ社会主義がこのように内部から解体しようとしているのか、これらの点については、のります。こうした社会主義諸国は一体どういう方向に向の動きは、ユーラシア大陸の東と西にある二つの歴史的なの動きは、ユーラシア大陸の東と西にある二つの歴史的な

第二次世界大戦かと思われるほどの緊張にさらされたので 第三次世界大戦かと思われるほどの緊張にさらされたので 地において記録されることでありましょう。考えてみると 世において記録されることでありましょう。考えてみると 世において記録されることでありましょう。考えてみると 世において記録されることでありましょう。 考えてみると はって、全世界が国際緊張の只中に投入され、あわや、によって、全世界が国際緊張の只中に投入され、あわや、 第二の側面は、いわば国際政治の象徴的な転換がこうし 第二の側面は、いわば国際政治の象徴的な転換がこうし

で で に で に で に で に で に で に で の で の で の で の で の で の で の で あ り ます。 わ が 国 も こ う き な は で の で あ り ます。 わ が 国 も こ う さ た の で あ り ます。 も が 国 も こ う と た の が は に 、 、 の が は に 、 の が は に の が は に の が は の が は の が は の が は の が は の が ら に の に の が は の に に の に に に の に の に の に の に に の に の

> というところまで米ソは歩み寄っていたのであります。こ きあげようという新しい外交政策を展開しておりました。 いってよいのではないかと思われます。 のような背景のなかでいまや冷戦はほぼ完全に終焉したと 九八九年は中距離核があっというまにこの世からなくなる あった中距離核INF全廃条約は一挙に実現し、すでに一 パ諸国との関係を改善し、東欧の最近の変化をふまえて、 に、より具体的には当面最もソ連が重視しているヨーロッ によって、特にアジア太平洋地域への関心を示すととも れるように米ソ関係の改善のために意を尽してきたのであ く対ソ和解へ転換し、ソ連もまたゴルバチョフ訪米に見ら せん。過去数年間、レーガン政権末期からアメリカは大き より今日の米ソ関係の打開は突然起こったものではありま めてしまおうという合意が成り立ったのであります。 のマルタにおけるサミットでは冷戦を地中海の海の底に沈 米ソ両国が、あいついで首脳会談を実現し、この十二月上旬 ります。同時にソ連はいわゆるゴルバチョフの新思考外交 「欧州共通の家」を大西洋地域からウラルにいたるまで築 こうした成果のなかで、米ソ間の当面の対立の争点で ところが今日、 あれほどまでに相互に批判しあっていた もと

に象徴されるそれ以来の米ソの新冷戦、こうした米ソ対決戦、そして過去十年間をふりかえった時にアフガニスタン第二次大戦後の特に五〇年代を中心とした米ソの東西冷

- 3 -

向に大きく動いているといっていいでしょう。 は終息していったのであり、国際政治は今や緊張緩和の方

後にわが国をめぐる国際環境の変化のなかで、 界の変動とともに十分検討しなければならない課題だと思 われます。したがって以下では、社会主義の変動の問題そ そしてこれが今後持続するのかどうかこの点も社会主義世 のあるべき姿勢を探求してみたいと思います。 して国際政治の大きな歴史的転換の意味を問い、そして最 それではこうした米ソの緊張緩和がなぜ起こったのか、 日本の将来

二 解体する社会主義体制

見を求めた時、私自身は次のように語りました。 てきたつもりであります。たとえば一九八五年四月、ベト になるのではないかということを、この間しばしば強調し ける進歩であり革新であるという方向が、いよいよ現実的 後は社会主義社会がそこから離脱することがその社会にお やがて近い将来ゆきづまっていくのではないか、そして今 ナム戦争十周年に際して、『朝日ジャーナル』 誌が私に意 ではないかと思われます。もちろん私自身は、社会主義が も急速に進展しようとはおそらく誰も予想できなかったの うな一党独裁体制の崩壊、このような画期的な変動がかく 動き、そしてソ連における複数政党制の採用に見られるよ 今日の東欧諸国にみられる脱共産化、脱社会主義化への

> であろう。そして革命が起きないどころか社会主義は成熟 わなければならなかった。 の経済を改善するどころか、ますます悪化させてしまって れているように、その後のベトナム革命の現実がベトナム 権樹立とともに大量の難民が海上に脱出したことにあらわ 革命十年の現実は、ベトナムの解放ではなくまさに革命政 革命、インドシナ革命をもたらした。しかしながらベトナム 民地といわれた東南アジアの一角にまで伸びて、ベトナム 予想だにしなかったアジア的専制の国、中国で開花し、さ た。そして、ロシア革命から四半世紀のちにはマルクスの ず、遅れたヨーロッパといわれたロシアにおいて結ばれ 想定したようなヨー らに四半世紀たつとその赤い一本の糸は、かつての南洋槌 いるように、革命の果実はきわめて貧弱なものであるとい こうした現実のなかで、もうアジアには革命は起きない マルクス主義という一本の革命の赤い糸は、マルクスの ロッパにおいてその革命を実現でき

旋回しはじめるのであって、そのことはそれらの国にとっ とする動きが進展するのではないか。時計の針が今度は右 てソ連へ、そして最後的にはアジアへと革命を離脱しよう おおっていったのとは逆に、今度は東ヨーロッパからそし 本格化するのであり、マルクスのイデオロギーが全世界を すればするほど、今度はそこから離脱しようとする動きが てまさに歴史の進歩であり革新である。 共産党から離脱

可能だといえましょう。 前に起こるということは、私自身のみならず多くの人々 ております。そして、この動きを再び逆流させることは不 た歴史の歯車はもう逆回転することなく大きく動きはじめ かったのであります。しかしながらひとたびはずみのつい が、そして東欧の指導者、当事者自身もそれを予測できな らものを、一つの歴史的必然性、蓋然性としては私も予測 は、その社会における反体制であり進歩であるという逆説 あります。 がいよいよ現実化する時代がこれからの世紀である、と。 し、共産主義のくびき社会主義のくびきから離脱すること したつもりでありますが、まさかかくも急速にそれが目の 以上のようなことをしばしば私は強調してきたつもりで したがって、今日の社会主義の歴史的変化とい

社会主義社会はそれらの理想をことごとく裏切ったのみな を実現し、そして国内諸民族の融和と平等を図り、そして らず、きわめて大きな犠牲をともなって今日に至ったので いうのがマルクス・レーニン主義の理想でしたが、現実の 人間が解放され、 社会主義は革命権力を樹立したのちに、真の経済的平等 自由なそして民主的な社会が訪れる、と

国侵略戦争によって、約一千万の人命が犠牲になったとい うことを強調していますが、革命権力を樹立したあとの毛 中国に例をとってみると、中国は十五年間の日本の対中

> もかかわらず経済の停滞が目立っております。 況にあるのであり、ソ連自身もその工業化という大前提に 会主義国はことごとく一人当りGNPが世界の最貧国の状 ず、経済が円満に発展しているならともかく、アジアの社 権の残虐は数百万の犠牲を出したともいわれているわけ 例では、インドシナ半島のカンボジアにおけるポルポト政 万もの人命が犠牲にされているのであります。つい最近の 沢東指導下の文化大革命の時期には、なんとその倍の二千 こうした血の犠牲という大きなコストにもかかわら

倍以上の債務をかかえてあえいでいます。 **債務は、四百数十億米ドルに達し、手持ちの外貨準備の十** 中国も過去十年間の開放と改革の政策で借りまくった対外 掲げて国家的崩壊寸前にあることはよく知られています。 東欧諸国がインフレや物不足に悩み、巨大な対外債務を

きているのであります。その台湾も、たとえば三十年前、 改革を実現し複数政党制による民主的な社会へと転換して 国の貿易総額をはるかに凌駕する大きな経済的存在となっ とびぬけて世界一という経済的実績を誇り、貿易総額にお 一九六〇年代の一人当り国民所得は大陸とほとんど違わな ています。しかも最近の台湾は経済改革のみならず、政治 いてもわが国の四分の一の一千一百億米ドルを越え、全中 湾は、今や外貨準備高が世界第二位、一人当りの外貨準備は 一方、その大陸中国の五十分の一の人口しか持たない台

- 5

— 6 —

せざるをえないのであります。毛沢東政治による社会主義体制を維持してきたことに帰着ギャップができた根本的な理由は、やはり中国がこの間、差がついてしまったのか、同じ中国人社会にかくも大きなかったのであります。なぜこの三十年間にこんなに大きなかったのであります。なぜこの三十年間にこんなに大きな

めて小さいものになりつつあります。とっち構造ではなくて菱形構造になり、貧富の格差はきわら、社会的平等も実現されているといって過言ではありません。台湾も他のニーズ諸国も、そしてアセアンの国々もり、社会的平等も実現されているといって過言ではありました。台湾も他のニーズ諸国も、そしてアセアンの国々もられた。台湾も他のニーズ諸国も、今日のアジアはマルクス・このようなことを考えると、今日のアジアはマルクス・このようなことを考えると、今日のアジアはマルクス・

あったことはいうまでもありません。 あったことはいうまでもありません。 とれに比して、ルーマニアのチャウシェスク体制がも象徴的な例として、ルーマニアのチャウシェスク体制がも象徴的な例として、ルーマニアのチャウシェスク体制がも象徴的な例として、中国やあるいはこれまでのソ連やあるいこれに比して、中国やあるいはこれまでのソ連やあるいこれに比して、中国やあるいはこれまでのソ連やあるい

力を集中してしまっていたところに今日の社会主義の悲劇ラツーラとして、特権の上にあぐらをかき、一部の富と権幹部は今や、まさに赤い食族として、いわゆるノーメンクしかしながら、ルーマニアほどではないにしても共産党

なければなりません。 を主義国は、是済的なギャップのみならずいずれも経済が を主義国は、経済的なギャップのみならずいずれも経済が を主義国は、経済的なギャップのみならずいずれも経済が の諸国は、東欧の一部をのぞいて推して知るべしだといわ の諸国は、東欧の一部をのぞいて推して知るべしだといわ

とん。

ば、彼らはインターナショナルな国際主義に立脚するのでめ、彼らはインターナショナルな国際主義に立脚するので見されたのでしょうか。かつてレーニンは民族問題に多大の関心を示し、「勝利したプロレタリアートは国境にこだいます。それでは、社会主義社会における民族の平等は実います。それでは、社会主義社会における民族の平等は実にないを示し、「勝利したプロレーニンは民族の事にとれる主義の目標に、彼らはインターナショナルな国際主義に立脚するのでが、彼らはインターナショナルな国際主義に立脚するのでが、というない。

調したのであります。なく自由な交流ができ、平等な世界が実現する。これこそなく自由な交流ができ、平等な世界が実現する。これこそしたものを乗り越えて連帯し、そして国境にこだわることあって、ナショナリズムとか排外的な民族主義とか、そう

う現実の矛盾がそこにあるといわざるをえません。ち現実の矛盾がそこにあるといわざるをえません。これには、ないのであって、民族問題は社会主義になればなるほど、よって裏切られているといわざるをえません。これには、はって裏切られているといわざるをえません。これには、ローチの方法の結果もありますが、何といっても社会主義になればなるほど、よりナショナリスティックになるほど、さいのような事実を考えると、ソ連においては大ロシア主このような事実を考えると、ソ連においては大ロシア主このような事実を考えると、ソ連においては大ロシア主

私はかつて論理的には相反する社会主義、つまり国際主

続けたことはよく知られております。 続けたことはよく知られております。 を見ていると、ありあまるほどの広大な領土を有する中ソを見ていると、ありあまるほどの広大な領土を有する中ソを見ていると、ありあまるほどの広大な領土を有する中ソを見ていると、ありあまるほどの広大な領土を有する中ソを見ているとはよく知られております。

中国自身が支援したベトナム解放が実現したとたんに、中国自身が支援したベトナムと中国との間で国境紛争が起こり、今度は、そのベトナムと中国との間で国境紛争が起こり、シスート、つまり共産党が権力を握ったにもかかわらず、リアート、つまり共産党が権力を握ったにもかかわらず、リアート、つまり共産党が権力を握ったにもかかわらず、リアート、つまり共産党が権力を握ったにもかかわらず、リアート、つまり共産党が権力を握ったにもかかわらず、リアート、つまり共産党が権力を握ったにもかかわらず、リアート、つまり共産党が権力を握ったのはつい最近のことを前上により、のであります。ということはあります。

最近の中国共産党の指導権の動揺のあいまを縫って、各地今、一挙に噴き出ているのであります。中国においては、によって、社会をしめつけてきたたがが緩んだとたんにこれらの問題がソ連においては、ペレストロイカの進展

- 8 -

中でその事実を確認することができました。中でその事実を確認することができました。カイグル自治区の首都ウルムチにおいて、ウイグが、あのゴルバチョフが訪中していたからでありますが、あのゴルバチョフ訪中とまさに同じ昨年の五月中旬にが、あのゴルバチョフ訪中とまさに同じ昨年の五月中旬にが、あのゴルバチョフが訪中していたからであります。チベットのみならで少数民族の反乱が続いております。チベットのみなら

という現実があります。という現実があります。という現実が増大してしまったといえましょう。そしてその原因平等が増大してしまったといえましょう。そしてその原因平等が増大してしまったといえましょう。そしてその原因の理できなかったのみならず、ますます民族間の差別や不という現実があります。

今日、日本の若い学生諸君や、多くの国民は日常的にあ今日、日本の若い学生諸君や、多くの国民は日常的にあった。日本国国家というのがせいぜいのところであった。常日頃日本国国家というのがせいぜいのところであった。 常日頃日本国国家というのがせいがいる きんしょう ことは、ほとんどなくてすまされている幸いな国民は日常的にあった。日本の若い学生諸君や、多くの国民は日常的にあった。

せよ、社会主義国に行ったとたんにその民衆は毎日のようところが、これがひとたび中国やソ連あるいは北朝鮮に

多様な意見はまったく存在しませんでした。というのでありますが、つい先日までのソ連にはこのような内部からグラスノスチ(情報公開)によって、民主的な選やがては大統領制度をもうけることによって、民主的な選挙による大統領の実現、というような大きな変革を図っているのでありますが、というような大きな変革を図っているのでありますが、つい先日までのソ連にはこのようながでは大統領の実現、というような大きな変革を図っているのでありますが、つい先日までのソ連にはこのようなができる大統領の実現、というような大きな変革を図っているのでありますが、つい先日までのソ連にはこのようなでした。

であります。
そして、今日依然として社会主義の孤塁を守っている中でありますが、その人民代表に丸印をつけてくることぐらいしいますが、その人民代表に丸印をつけてくることぐらいしの、県というのは中国の場合市よりも小さい行政区画であの選出ぐらい、そのぐらいの意味しか持たない、県レベルの選出ぐらい、その人民代表に丸印を批判する自由もなければそ国や北朝鮮においては、権力を批判する自由もなければそ国や北朝鮮においては、権力を批判する自由もなければそ

が、ほぼ理解できるのではないかと思われます。こうしの社会主義はまさに解体せざるをえない運命にあったことは聞いたことがありません。こうした状況を考えると今日りますが、彼が、国民の選挙によって選ばれたということ鄧小平氏のような超法規的な存在が君臨しているのであ

ります。することもできないのが多くの社会主義の国民の現実であすることもできないのが多くの社会主義の国民の現実であよって絶対にそんなことは不可能であります。自由に移住外に旅行しようと思っても一般の庶民は国家の生におびえなければいけません。もし仮りに、海ります。

わずかではないかとさえ思われる状況が今日存在している になるでしょう。 きて、凶暴な抑圧機構になってきているという現実。こう と私は見ております。 そしてこの動きは、今の中国にもやがて波及してゆくこと に暴発して立ち上がり、独裁者を打倒したのであります。 あって、それに耐えられなくなった東欧の人たちが、つ にある、東欧諸国の国家がまさに如実に示していたので した現実は、ついこの間までの東欧諸国の一党独裁体制下 主義国においては国家が死滅するどころかますます蘇って 死滅する」というのがマルクス主義の原理でしたが、社会 境がなくなり、自由な世界になっていく、つまり「国家が 本来マルクス主義は、抑圧機構としての国家を解消し、国 きわめて深刻な状況のなかで悩んでいます。そのように、 つけのなかで、 今、日本にいる中国の留学生は、天安門事件以後のしめ 中国当局のコントロールを逃れるために、 したがって中華人民共和国の命脈もあと

の不平等のみならず民族的な不平等、さらには国家によるこのように考えると、単に社会主義国においては、経済

ないかと私は考えています。 て、今や社会主義はついに歴史的な崩壊を迎え、二十一世 にはこの世から次第に消えてゆくのではないかと私は考えています。 そして、アジアにはもう革命は起きない。そして、マ が、現実にそれが、一つの国家を動かす理念として存在す のことは、やがて、二十一世紀にはなくなってゆくのでは ないかと私は考えています。

三 緊張緩和の意味するもの

多会談を歴史的な画期として、米ソ間の冷戦がほぼ終焉しょった、戦後のヤルタ体制まで崩壊したという一部の議論は、あまりにも表面的な見方ではないかと私は考えます。は、あまりにも表面的な見方ではないかと私は考えます。は、あまりにも表面的な見方ではないかと私は考えます。は、あまりにも表面的な見方ではないかと私は考えます。は、あまりにも表面的な見方ではないかと私は考えます。は、あまりにも表面的な見方ではないかと私は考えます。以連共産党スターリン費記長、そしてイギリスのチャーチソ連共産党スターリン費記長、そしてイギリスのチャーチン連共産党スターリン費記長、そしているように、マルタ会談を歴史的な画期として、米ソ間の冷戦がほぼ終焉しタ会談を歴史的な画期として、米ソ間の冷戦がほぼ終焉しタ会談を歴史的な画期として、米ソ間の冷戦がほぼ終焉しり会談を歴史的な画期として、米ソ間の冷戦がほぼ終焉しりないの場合に、マルタ会談を歴史的な画期としていることはいうまでもありません。

- 9

こうして、米・英・ソ三大国による戦後世界秩序の形成

もありません。更に米ソ関係の対立は、米中対立をもたら 日の朝鮮における南北分断が固定化されたことはいうまで じ込め政策による米ソ冷戦が激化したのであります。その しわよせがアジアにおいては、朝鮮戦争として現われ、今 うしたなかで、東欧諸国がソ連の衛星国化したことは、ア 会主義・共産主義をめざそうとするソ連との対立にあっ ち自由主義・資本主義を擁護しようとするアメリカと、社 は、その社会システムと国家目標の根本的な違い、すなわ 体制だといっていいと思います。しかしながら米ソ両国 両大国でありました。そしていわば、こうしたヤルタ体制 が図られたのでありますが、何といってもその主役は米ソ メリカの対ソ冷戦政策をいちじるしく強化し、いわゆる封 のもとで、米ソが世界を山分けしようとした体制をヤルタ まもなく内部が動揺し、米ソ冷戦がはじまります。

な歴史的課題として急速に登場してきております。 アジア ドイツの統一が、今後二十一世紀にかけて、いよいよ大き ことになります。 事者であったドイッと日本を大きくクローズアップさせる 前の体制に逆戻りするのであって、第二次大戦の一方の当 まで解体してしまうということになると、それはヤルタ以 日本の経済的台頭によって今やアメリカは、

しかしながらこうした状況のなかで、もしもヤルタ体制 ベトナム戦争に至ったのであります。 時あたかも、ベルリンの壁が崩壊し東西 そ

ろにまで進展しようとしたのであります。 われるような宇宙間におけるソ連との競合対立というとこ 前のアメリカは、例えばSDIすなわち戦略防衛構想とい

済大国へと発展してきたのであります。 田ドクトリン」のもとに第二次大戦後の廃墟から今日の経 かも、日本はいわば軽武装、経済中心主義のいわゆる「吉 の背景にあったといっていいのではないかと思います。し うのが、一方における米ソの軍拡から軍縮への大きな転換 力の発展が、経済の内部的な拡大と成熟をそこなったとい しく弱体化させてきたことはいうまでもないわけで、軍事 こうした軍拡競争は、結局は、米ソ間の経済をいちじる

えつけることができなくなりつつあるわけで、こうした米 因だといわれています。ソ連にとっても、もはや東欧諸国 世界最大の債権国から債務国に急速に転落させた大きな原 国のあいつぐ離反と、そして経済の混乱はアメリカをして 的な理由ではないかと思います。 ソの経済的停滞が、米ソ間を歩み寄らせたもう一つの根本 じめました。アメリカにとっては、特にラテンアメリカ諸 を、例えばソ連の石油によって庇護しコントロールしおさ たにもかかわらず、その勢力圏内部もガタガタと動揺しは 米ソはそれぞれ同盟国あるいは衛星国を軍事的にも保護 大きなコストをかけてそれぞれの勢力圏を守ろうとし

以上のように考えてくると、 今日の米ソ間の緊張緩和は

> アメリカの日本たたきによっても十分らかがえるところで 同盟国日本に対してもいら立ちはじめているのが、最近の

してでも阻止したいというのが、最近の米ソ間を結びつけ 状態に戻して、日本やドイツの強大化を図ることは、何と た潮流にあることを忘れてはならないと思います。 いかに米ソ関係が和解したといっても、ヤルタ体制以前の めていかなければなりません。こうした前提がある以上、 私たちはこのような新しい国際関係の潮流を、十分みきわ 合意が、米ソ間に働いていることはまちがいないわけで、 やドイツの歴史的役割の再現を、阻止しようとする暗黙の したがって、今日の国際社会においては、こうした日本

われていたのであります。そして、米ソは軍拡競争を行な うことにより、やがては核開発の競争、そして、つい数年 NPの十二パーセントから十五パーセントまでのぼるとい なければいけない時代が続きました。ソ連の軍事費は、G 五パーセントから七パーセント近くを、軍事費に注ぎ込ま ております。過去米ソ冷戦によってアメリカは、GNPの やかすほどのものになっているわけで、これらのことがア アのニーズ諸国の経済的発展は、いまや欧米諸国をもおび 台湾、韓国あるいは香港、シンガポールといったようなアジ メリカ、ソ連の政策を転換させる根本に存在したと私は見 特に、最近の日本の経済的台頭、そして日本を取り巻く

ようとしている最近の歩みによっても歴然としています。 制覇しようとするのではないかという、一部の対ソ強硬論 をペレストロイカによって増強し、強大化して再び世界を 当面の米ソ緊張緩和によって時間をかせいで、やがてソ連 十年代の東西冷戦から、やがて緊張緩和へ、 単に一時的な現象ではないといえましょう。確かに戦後の 時代でないことは、ソ連自身が脱共産化、脱社会主義化し 者の意見も依然として残っておりますが、今やそのような かうのではないかという意見もあり、そして一方、ソ連は 大国の和解も再びまた、緊張激化あるいは米ソ対立へと向 ソの新冷戦へという転換をとげてきたので、今日の米ソ両 来事が起こることによって、大きく変動してきました。五 国際関係は、約十年きざみで、しかも各年代末に大きな出 そしてまた米

- 11 -

生き延びていかなければならない立場に置かれているので れしてこれらのマーケットを活性化させ、アメリカ自身が れないためにもソ連との経済関係を強化し、東欧をテコ入 和や東欧諸国への支援に見られるように、日本に先を越さ おります。のみならず、アメリカは最近のココムの規制緩 上軍あるいは海洋戦略の相互縮小というところにまで、 きく歩み寄っていかざるをえないのではないかと私は見て ART条約の締結による米ソの核戦略の廃止、さらには地 た中距離核の全廃から、まもなく、いわゆるスタートST このように考えると、最近の米ソ関係はすでに合意され

うとする米ソの合意の場ではなかったかと思われます。 も更に二十一世紀においても、その枠組みだけは維持しよ 体制の崩壊どころか、ヤルタ体制を、まさに現代において 同時にヤルタ体制というものを現代において、再びヤルタ 味での米ソ関係の根本的な転換であり、そしてまたそれは このように見てくると、まさにマルタ会談はそうした意

目しなければならないと思います。 どのように影響を受けるかという点を、私たちは大いに注 急速な崩壊による統一ドイツの出現ということによって、 点についてはフランスもイギリスも同意するところであっ パの首脳自身が予想もしなかったような、ベルリンの壁の て、今後の一九九二年のEC統合というものが、ヨーロッ ロッパの国際政治の大きな課題になると思いますし、この したがって、当面ヨーロッパにおいては、強大な統一ド ツの出現を、何とかチェックすることが、今後のヨー

従来、日米関係はパートナーであったならば、お互いに内 政に干渉しない、それぞれの相互の事情を尊重するという りつつあることだと思います。日米構造協議というのは、 日本の国際的影響力は経済を通してますます全世界に広が が、今後ますます過大になってゆくであろうこと、そして 一方、アジアにおいてはアメリカの日本に対する要求

上で成り立っていた日米関係が、今や日本の国内の運営に いかに知的レベルの低い水準のなかで

行なわれているかを、あえて印象づけようとするかのよう な記事が氾濫していたのであります。 政治というものが、

ないと思いますが、やはり私たちは経済大国としてのみな いと思います。 政治改革、政治の革新をさらに求めつづけなければならな らず、国際社会における資任ある日本を築いてゆくために いることは、日本の政治の貧困を物語る以外の何ものでも こうして、 日本のイメージがある意味ではそこなわれて

強硬外交をとっている内に、アメリカは自ら身をかわし て、米ソ関係の改善にのり出すというような状況がありま には、日本の頭ごし外交によって中国との関係の打開を図 を示すとそれについてゆく。しかしながら、常にアメリカ と関係を改善しようとすると、わが国もその後をついてゆ り、そして日本がアメリカのソ連脅威論に追随して、対ソ く。アメリカがココムにおいて、きわめて厳しい対ソ姿勢 一方、外交においては、常に後手後手でアメリカが中国

ているにもかかわらず、事あるごとに中国に批判され、 ではなく、 して謝罪外交をくりかえすというような有様であって、 「対中国位負け外交」と私がいっているような姿勢をとっ 一方、例えば韓国・台湾のような周辺からの信頼も十分 また、中国との間にはわが国政府は低姿勢の そ そ

> な課題になるということを、あらためて認識させつつある す反面、日本の今後の外交姿勢や対外関係がきわめて重要 で、今やアメリカ自身が日米安保を、重荷に感じていると のが昨今の国際関係の動きだといえましょう。 いう側面が出てきていることも無視できないと思います。 も日米安保体制の見直しということがいわれてくるわけ でいるといえましょう。だとすると、当然アメリカ側から ているという意味において、きわめて深刻な矛盾をはらん までアメリカは口出しせざるをえないというところまでき こうして、東西冷戦の緩和は世界的な緊張緩和をもたら

日本はどのような道を歩むべきか

四

をセックス・アンド・ブライバリー、つまりセックスと賄 知ったのですが、外国の新聞は日本の今日の総選挙の結果 よる自民党の勝利、そして社会党の躍進という現実にもか る現実に、私たちは直面しています。最近の衆議院選挙に 世界の第一級国とはとてもいえないのではないかと思われ 治の面においても、あるいは外交や文化の面においても、 賂による日本の政治と麦現しておりました。 ん。私は、たまたま外国出張中に、衆議院選挙の結果を かわらず、 済大国としては世界に冠たる存在でありながら、例えば政 このような厳しい国際環境のなかで、とかくわが わが国における政治改革は遅々として進みませ つまり日本の

るどころか、ますますたたかれ、そして、孤立化させられ は西側諸国からも、大きく批判されたのであります。結局 るという宿命にならざるをえません。 くということは、国際社会のなかにおいて日本が尊敬を得 なかで日本の経済だけが、ますます強大なものになってゆ いかというのが、諸外国の共通した見方であり、そうした 日本はニコノミック・アニマルとして存立するだけではな うしたなかで例えば天安門事件に対するわが国政府の**姿勢**

どということをいっているわけで、これはきわめて矛盾し が、諸外国から問われているのではないかと思います。 思いますが、この一事をとっても日本外交とは何なのか 府の外交政策を批判できないでいる野党もだらしがないと た姿勢だと思います。そしてその矛盾にも気づかずに、政 た中国の戒厳令解除に伴なって、日中関係を打開しような 欧とは百八十度反対の立場にある中国に対しては、これま けれども、その東欧の生き方を根本的に否定している、東 国は最近東欧諸国を支援しようと海部首相も訪問しました 分な議論がなされているとは思えないわけで、例えばわが それにつけても日本の国会では、これらの問題について十 に打ち出してゆく必要があるのではないかと思われます。 は経済大国にふさわしい外交姿勢といわば国際戦略を明確 ションを高めることにもなりかねないわけで、今やわが国 このような状況が続くことは、日本国民のフラストレ

— 13

— 12 —

世界一の援助大国になっているにもかかわらず、わが国は世界一の援助大国になっているにもかかわらず、その事はいわずに姑息な外交姿勢だけをとっていたがっている姿勢が必要なのであって、それは内政干渉でも何ちがっているところは強くそれに対していうべきことはいちがっているところは強くそれに対していうべきことはいたがっているところは強くそれに対していう、中国に援助するかわりに、立た日中友好のためにも必要であるにもかかわらず、その事はいわずに姑息な外交姿勢が必要であるにもかかわらず、その事はいわずに姑息な外交姿勢だけをとっているという。 でもなく、まさに日中友好のためにも必要であるにもかかわらず、その事はいわずに姑息な外交姿勢だけをとっているとは思われません。今やでもなく、まさに日中友好のためにも必要であるにもないる。

は、政治亡命をいっさい受けつけない国家として今日存在 も、単に日中関係の争点のみならず、まさに人権問題とし で、クローズアップされてきています。天安門事件の後遺 で、クローズアップされてきています。天安門事件の後遺 をして、内外から糾弾されそうなふんいきがすでに、国連 として、内外から糾弾されそうなふんいきがすでに、国連 として、内外から糾弾されそうなふんいきがすでに、国連 とからも出はじめております。これは、わが国が経済重視 どからも出はじめております。これは、わが国が経済重視 どからも出はじめております。これは、わが国が経済重視 といるとを示していると思われますし、他方ではわが国 のあまり人権とか民主主義の根本についてきわめて鈍感で あったことを示していると思われますし、他方ではわが国

す。ての外圧もますます高まってくるのではないかと思いまひ治亡命を受け入れない国でありますから、この点についりません。これほど豊かになった日本なのに、いっさいのしておりますので、ここにも問題があるといわなければなしておりますので、ここにも問題があるといわなければな

でであると、私は考えています。 したという外圧のみならず、これからは日本のいわば基本的大という外圧のみならず、これからは日本のいわば基本的な生存の在り方をめぐっても、様々な議論が起こることを、私済的な力が、今や世界に拡大しつつあるということを、私済的な力が、今や世界に拡大しつつあるということを、私済的な力が、今や世界に拡大しつつあるということを、私済的な力が国の生存の戦略と国際交流へのこの積極的な開家し、わが国の生存の戦略と国際交流へのこの積極的な関策し、わが国の生存の戦略と国際交流へのこの積極的な関策した。 は、おいのは、米の自由化の問題をめぐる農産物の市場の拡いわゆる、米の自由化の問題をめぐる農産物の市場の拡いわゆる、米の自由化の問題をめぐる農産物の市場の拡いわゆる、米の自由化の問題をめぐる農産物の市場の拡いわゆる。

いえましょう。 (平成二年三月二十一日)しっかりと位置づけてゆくべき大きな責任を負っていると回りはじめました。この潮流のなかにわが国は、自らを世界は今まさに大きく動こうとしており、歴史の歯車は

国際化社会に生きる若者たち

日本人留学生に思う

―ある日系人の手紙から考える

7原 芳明

(国際教育室長)

ジャパニーズ・イズ・マネー

より、アメリカのロス・アンジェルスに住んでおられる 最近、アメリカのロス・アンジェルスに住んでおられる 最近、アメリカのロス・アンジェルスに住んでおられる 最近、アメリカのロス・アンジェルスに住んでおられる 最近、アメリカのロス・アンジェルスに住んでおられる 最近、アメリカのロス・アンジェルスに住んでおられる 最近、アメリカのロス・アンジェルスに住んでおられる 最近、アメリカのロス・アンジェルスに住んでおられる

を果たすことは、当然と言えば当然のことでした。けっしを果たすことは、当然と言えば当然のことでした。けっした。海外留学もままならぬ当時は、そうすることでもってた。海外留学もままならぬ当時は、そうすることでもって生活費を節約し、学費へと充てたのでした。一方、家族の一員ということは、当然それ相応の役割分担があり、家内外の掃除、洗濯、食料買い出し等の手伝い仕事を、時間の外の掃除、洗濯、食料買い出し等の手伝い仕事を、時間のかし、外国人である私を、その家族の一員として受け入れてくれたアメリカ人家庭の犠牲的精神に対し、それに報いてくれたアメリカ人家庭の犠牲的精神に対し、それに報いてくれたアメリカ人家庭の犠牲的精神に対し、それに報いてくれたアメリカ人家庭の犠牲的精神に対し、それに報いてくれたアメリカ人家庭の犠牲的精神に対し、それに報いてくれたアメリカ人家庭の犠牲的精神に対し、それに報いるべきそれ相応の仕事をし、また家族の一員として生活させるホスト・ファミー留学生を家族の一員として生活させるホスト・ファミーの音楽を表す。

小原哲郎監修

19904

压人被商

NO.502

The Whole Man Education

玉川学園

